10.　丹後国　古代　鉄の王国【1】

天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」 ―

『日本誕生前夜　- 丹後国 の IRON ROAD -』

tngoprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1.

【内　容】

10.1.　丹後国　古代　鉄の王国

10.2.　「羽衣伝説　天女の通った道は鉄の道」

10.3.　弥生時代３世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂･今井墳丘墓遺跡

10.4.　ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳

【参考】

11. 丹後国　古代　鉄の王国【2】「もう一つの邪馬台国」

古代丹後国の大製鉄地帯　弥栄町　竹野川沿いの丘陵地

tngo2print.htm

日本の原像

第9部 鉄器登場 ③

日本海沿岸に続く「道」

ねばり強い運動が実ってなだが発掘された弥生時代の大型墳墓遺跡、鳥取県大山、京丹後市の奥木晩田遺跡は近く、弥生の遺跡遺跡として国の史跡に指定される運びだ。将来の詳しい調査や整備に備え、遺構の土砂崩れなどを防ぐ埋め戻し作業も九月十七日に始まった。

この地に出現した弥生社会は、朝鮮半島など海外から最新鋭の鉄の道具類を大量に手に入れることができる力と交渉の力を持っていた」。慶應大学の村上恭通助教授は、鉄器の解明を通じてその実像をとらえつつある。

日本海を見下ろす奥木晩田遺跡では一九九二年から発掘調査が続けられた。その結果、八百棟以上ものぼる建物跡をはじめ、ヒトデのような特異な形の竪穴住居跡、環濠、環状列石墓二十四基、墓域周辺の遺構などが見つかった。全国的にみても初めての遺跡である。

住居跡などから出土した鉄器は計百七十点。木の柄を取り付ける部分を補強した長い斧の刃のほか、鏃（やじり）、小刀、木工用のヤリガンナなどだ。形状からみて、北部九州や地元でつくられたものが大半を占める。遺跡には、鉄器生産のための炉の跡も残っていた。しかし、日本海を越えてきた高度な技術の製品もあったようだ、という。

使われた交易力や交渉力を裏付けるという奥木晩田遺跡出土の鉄器類＝慶應大・村上恭通助教授

奥木晩田遺跡より少し前、紀元前二世紀ごろ、鳥取県の大山遺跡群からは、二百棟以上の弥生住居跡とともに斧や鎌などの鉄器が発見されている。このほか、東方約四十キロの東郷町・湯内城遺跡からは弥生時代の鉄刀（九十五センチ）と鉄鏃（七十一センチ）、いま調査されている遺跡町東郷の貴谷町・貴谷上寺地遺跡からは、すでに紀元前以上前のぼる優れた弥生鉄器が出ている。

貴谷上寺地の鉄器は総計三千一百の鉄斧やヤリガンナ、タガネなどだ。鍛造、鍛造用技術による製品が発掘されている。和士賀の土壌に覆われた状態で、原形をとどめたものが多く、熱度や動物骨の古い用具で知られる鉄製品遺構に加え、学界から重要視されている。

このように弥生、鳥取県の弥生遺跡からは鉄器が「続出」している状況だが、鳥取の西、鳥取県でも安来市・荒島遺跡からの遺構とともに鉄などの鉄器が出土するなどの発掘が相次いでいる。京都府内では、コバルトブルーの鮮やかなガラス製腕輪とともに全国最多の二十四本の鉄剣で有名となった岩滝町・大風呂南遺跡をはじめ、弥栄町・竹野川遺跡、峰山町・扇谷、途中ケ丘遺跡などおびただしい弥生の鉄器、炉の跡などが丹後半島を中心に発掘している。

さらに剣やヤリガンナなど四十点が出土している福知山市の妙楽寺遺跡をはじめ、福井市の林・藤島遺跡、石川県羽咋市の吉崎・次郎遺跡、富山県氷見市・伏木遺跡、新潟県上越市・高山遺跡など、数多の弥生鉄器の発見は枚挙にいとまがない。「遺跡と続く数多の日本海沿岸の鉄の発見例は近畿地方にもなく、全国的に」といわれるほどだ。最古の銅鏡、銅鐸などと相次いだ出雲地方の青銅器群の発見に、期待が高まった。

これら弥生の鉄器は、少なくとも鉄素材自体は朝鮮半島や中国でつくられたもので、かなりの舶来品は「輸入品」とされている。鉄器品などを手にえるには、その「見返り」がいる。奥木晩田からの交換品はまだ分かっていない。

しかし「たとえば出雲や富山、新潟の玉製品、ヒスイ製品、丹後半島の水晶製品などのように、大陸でも珍重された工芸品が想定できる。もちろん、軍事力や政治力のほか優れた鉄器技術も持っていたのでは」と村上さんはみる。

日本海沿岸に沿って続く「鉄の道」・しっかりとした「日本海文化圏」の骨組みが浮き彫りになってきた。

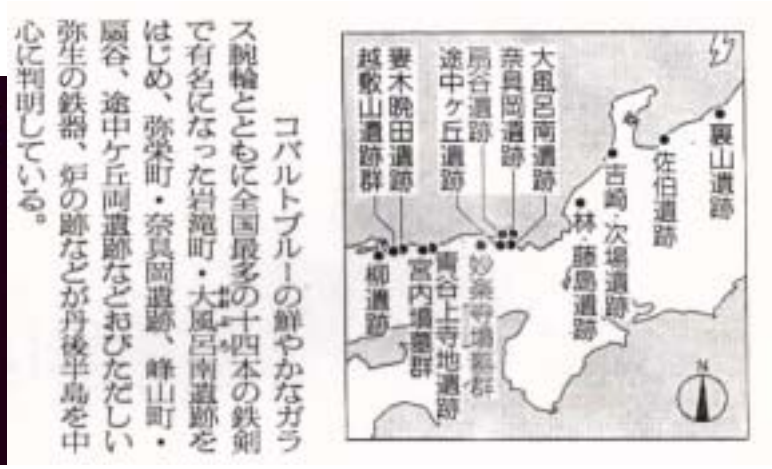
（編集委員・天野　幸弘）

（朝日新聞　大阪版　夕刊より）

10.1. 『日本誕生前夜　- 丹後国の IRON ROAD -』

天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」

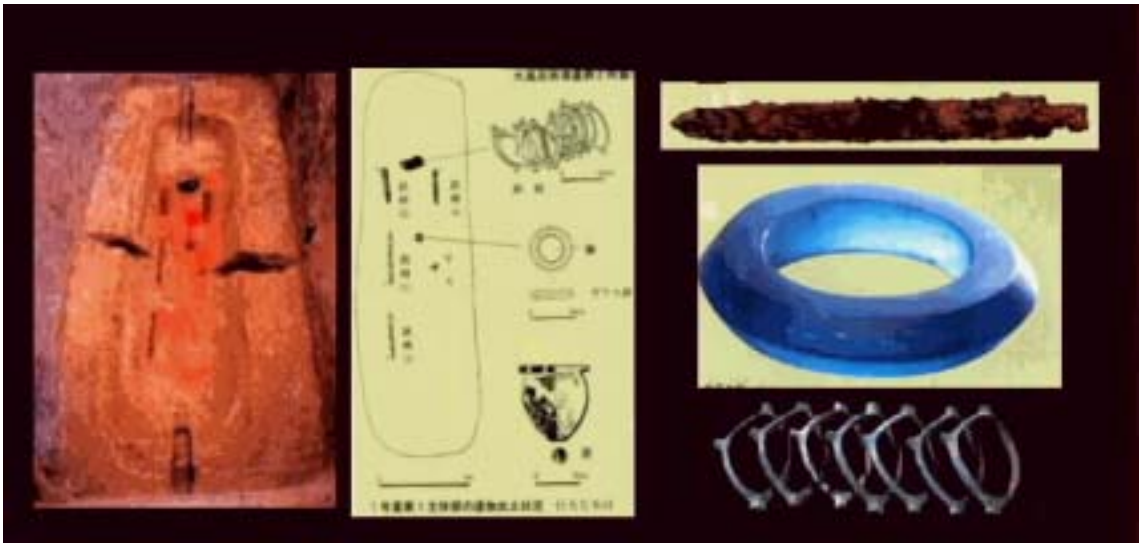
丹後の国　京都府峰山町赤坂。誰にも関係がないが、私の親父の故郷である。この赤坂で昨年弥生の大規模な墳墓が発見されたと聞いてビックリした。赤坂・今井墳丘墓遺跡である。
この地方が古代から開けた土地であり、この町のすぐ東に隣接した弥栄町から製鉄遺跡などの古代遺跡が続々と発見され、もしやと思っていましたが、本当にビックリした。
若くして大阪に出てきた父が生前口癖のように『丹後は山地水明の地…日本の中心』と言っていたのを思い出しています。 この『たたら』の WALKING を始めた時には思いもよらぬ展開でただただ繋がりの不思議さにビックリ。
日本国誕生の前夜の 3,4 世紀。この時期、大陸・朝鮮半島を含めた各地との交流は活発で、山陰地方では、四隅突出墓と呼ばれる方形の墳丘の四方に突出部を付けた墳丘墓が数多く作られた。
その分布は出雲地方を中心に伯耆・北陸まで広がり、山陰の日本海側では出雲を中心とした政治的連携をもった大王国があった。
この時代　丹後には、出雲や他の山陰地方でみられル四隅突出型とは異なる大型の方型墳墓が築造され、数多くの鉄剣が副葬された大型墳丘墓遺跡や製鉄遺跡群の存在はこの地にも大きな独自勢力を持った古代鉄の王国があったことが覗える。



日本海側に点在する古代遺跡・丹後半島の古代製鉄関係遺跡【写真は大風呂南遺跡　出土品】

丹後半島のほぼ中央に大きな築造墳丘を有する峰山町赤坂今井遺跡・扇谷遺跡。
野田川が流れ下る加悦・岩滝町にあり、非常に美しいガラス製の青い腕輪が多くの鉄剣と共にほぼ完全な形で出土した岩滝大風呂南遺跡。 そして丹後半島ほぼ中央竹野川が流れ下る弥栄町の奈良岡遺跡・遠所製鉄遺跡を初めとした数々の製鉄遺跡などである。
『峰山町　赤坂』は、日本海に面した網野町から山合を通って峰山へ抜ける街道にあり、古くから丹後半島の険しい海岸を通らず、丹後半島の付け根を横断して岩滝町で若狭湾の海岸に出て畿内へとつながる道である。
網野の街から山間に入り、昭和の初め丹後大地震の郷村の断層地帯を抜け、峰山盆地にでる手前が『赤坂』である。 後で知ったのだが、産鉄民の数々の研究をされている柴田弘武氏の本によれば、この『赤坂』にある『…・神社』は古代製鉄に関係のある遺跡と指摘されており、赤坂今井墳丘墓の発見で、この道が『日本海海岸から畿内へと続く古代 IRON　ROAD 』であるとの意を益々深くしている。
また、この丹後地方には　『浦島太郎』伝説や『羽衣』伝説が伝えられ　ており、古くから大陸と独自の交流があり、丹後古代鉄の王国として大きな勢力をもっていた。
大江山に源を発した野田川が流れ下る丹後半島の付け根岩滝町・加悦町近傍にも大風呂南遺跡など多くの古代遺跡が点在し、丹後半島の壁としてそびえる大江山には『鉄』と関係づけられる『鬼』伝説がある。『羽衣』伝説も産鉄の民と深い関係があるとする説〔柴田弘武氏「風と火の古代史」〕もあり、鉄と関係づけられる大きな王国がこの丹後半島にあったことは、疑う余地はなく、その中心地は大江山に源をはっする野田川が流れ下る加悦町・岩滝町近傍と比治山から流れ下る竹野川流域の弥栄町であろう。

【古代鉄の王国　丹後国の二つの中心地　竹野川・野田川流域】



1.野田川流域　鉄の交易ルートをにぎった首長の墓(推定) 大風呂南遺跡とその出土品

2. 丹後半島の中央部　竹野川流域
京都府弥栄町　ニゴレ製鉄遺跡　発掘風景と峰山町　赤坂今井墳丘墓

「羽衣伝説」の天女が舞い降りた比治山一体は大砂鉄地帯であり、天女がこの比治山から下ってきた竹野川沿いには扇山遺跡などの製鉄と関係する遺跡が点在し、そして天女が安住した弥栄町船木の対岸には古代丹後の国の大製鉄所　弥栄町木橋字鳥取の遠所遺跡が存在する。
柴田弘武氏や谷川健一氏が言う「天女が通った道は製鉄の道」まさに竹野川はそれを裏付けている。
若干時期は新しくなるが、大和では前方後円形を呈する纒向型前方後円墳と呼ばれる墳丘墓が出現し畿内を中心に分布。また、尾張では前方後方形の墳丘墓が出現し東海を中心に分布圏 を形成。
このように日本各地では、墓の形を共有することによって政治的な連合関係を結ぶいくつかの地域・大王国が出現してくる。
大陸・朝鮮半島から鉄の技術を持って渡ってきた多くの渡来人が、既にいる人達と融合しつつ、全国に幾つかの大王国を作り、そんな中から大和が勢力を伸ばし、他を従え、日本誕生を成し遂げていった。
まさに大陸から海を越えてつながる『Iron Load』の道筋が見えてくる。

2000.5.1.　神戸にて　M.Nakanishi

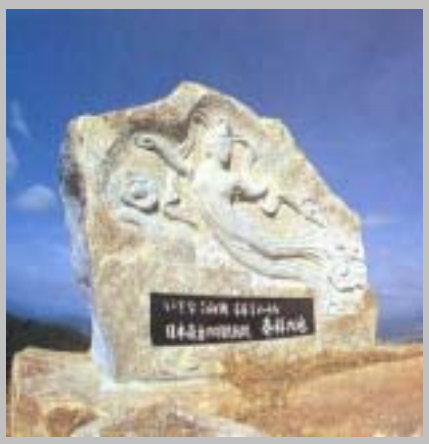
【参考】　　丹後半島の古代製鉄遺跡

丹後の国　古代　鉄の王国

10.2.　天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」

峰山町に残る「天女」伝説 -丹後国　IRON ROAD -

hgrmoprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1.



【 磯砂山頂上にある羽衣伝説の碑 】

丹後地方には『浦島太郎』伝説や『羽衣』伝説が伝えられており、古くから大陸と独自の交流があり、丹後古代鉄の王国として大きな勢力をもっていた。　『鉄』と関係づけられる『鬼』伝説の残っている大江山・野田川流域に対し、丹後半島・竹野川流域に伝わる『羽衣　天女』伝説もまた産鉄の民と深い関係があるとする説〔柴田弘武氏「風と火の古代史」〕もあり、この丹後の国の『羽衣・天女伝説』には強く惹かれる。

通常　「鬼伝説」の伝承は古代産鉄民及び古代製鉄遺跡と結び付けられている場合が多く、その代表例としては、ほかにも、備前の「桃太郎の鬼退治」　津軽岩木山周辺の「鬼太夫伝説」　伯耆の国　溝口の「鬼伝説」などがあげられる。

そんな中で、柴田弘武氏著「風と火の古代史」を読むと「丹後の天女伝説」　各地に広く流布されている大男「ダイダラボッチ」なども「たたら」製鉄の伝承と非常に密接な関係を持っていると言う。

古くから　聞かされてきた丹後の国の「羽衣・天女伝説」が「大陸との交流の伝承」とは思っていたが、古代製鉄と関係が有るとは考えても見なかった。 しかし、丹後の国が古代鉄の大王国だったことと考え合わせるとその説にも納得させられる。

峰山盆地のはずれ「羽衣天女伝説」の天女が舞い降りたとの伝承のある比治山一体の山･谷は古くからの大砂鉄地帯である。また、天女がこの比治山から下ってきた竹野川沿いには峰山町の扇山遺跡・赤坂今井墳丘墓遺跡など多くの製鉄と関係する古代遺跡が点在し、さらに弥栄町に入ると多くの弥生遺跡や古代の製鉄遺跡画点在する。とそして天女が安住した弥栄町船木の対岸には古代丹後の国の大製鉄所

弥栄町木橋字鳥取の遠所遺跡が存在する。

古代史・古代たたらの研究家　柴田弘武氏や谷川健一氏が言う「比治山から天女が川沿いに流浪して下ってきた竹野川はまさに製鉄の道」を裏付けている。
丹後半島の丁度中央にある峰山町に残る「天女」伝説の一つは和銅 6 年（713 年)から天平にかけて献上された「丹後風土記」に記され、文字として残された日本最古の羽衣説話です。
謡曲「羽衣」は、この丹後のお話をもとにして作られました。
そして、もう一つは、口承説話として地域の人々が大切に語り継いできた羽衣天女のお話です

1．和銅６年（713 年）「丹後風土記」に記録されている

丹後国　羽 衣　天 女 伝 説

丹後の磯砂山の中腹にある女池で８人の天女が水浴をしていたところ山麓に住む老夫が１人の天女の衣を隠してまった。
天に帰れなくなった天女は、以後 10 年間老夫婦の子とし酒を造り、機（はた）を織り、五穀の生産に励み家を富ませたが、老夫婦は、天女がだんだん邪魔になり追い出した。
天女は泣く泣く竹野郡の奈具社に向かったという。

むかし、むかし、比治の山の頂に真井という大きな澄んだ池がありました。
その池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていました。それを見た里人の和奈佐という老夫婦が一人の天女の羽衣を隠してしまいました。
天に帰れなくなった天女はしぶしぶ老夫婦と暮らすことになりました。
天女は酒づくりが上手でこの一杯の酒は万病にききました.この酒は高い値で売れ、たちまちこの老夫婦も比治の里も豊かになりました。
そのうち十年ばかりたち、豊かになった老夫婦は心変わりして天女を家から追い出してしまいました.
嘆き悲しんだ天女は，”天の原、ふりさけ見れば霞立ち家路まどいて、行方知らずも”と天を仰ぎながら歌を詠みました。
流浪の旅に出た天女は泣く泣く荒塩の村にたどり着き、その後、丹波の里の哭木(なきき)の村から奈具の里に行き、ここで落ちつきました。
この天女は奈具の社におまつりしている豊受大神で五穀、養蚕、酒づくり神様といわれ、その後豊受大神は伊勢神宮の外宮としてまつられています。

比治の里 ： 峰山町五箇･久次・鱒留付近　竹野川の支流鱒留川の源流五箇の南端磯砂山(いなさごやま)は比治山とも言い、この山の東側中腹にある女池が天女の舞い降りた真奈井だとされている。
この比治山・鱒留川源流域の山･谷間からは古代から豊富な砂鉄を算出する地帯であることが知られている。
荒塩の村 ： 峰山町久次だとされている。
丹波の里 ： 峰山町丹波この地の弥生時代前期末の扇谷遺跡からは鉄斧が出土した。
哭木の村 ： 峰山町内記　この地にある名木神社にも豊受大神（天女)が祭られている。
奈具の里 ： 弥栄町船木の里とされている。
竹野川沿いのこの地の対岸には古代の一大製鉄遺跡遠所遺跡がある。
このように伝説の天女は比治の里から竹野川沿いに下流へ流浪の旅を続け、峰山町丹波を通り、船木の里を安住の地としている。この天女のたどった竹野川沿いの道はまさに古代製鉄の遺跡　丹後の国の大製鉄地帯と重なっており、まさに『 羽衣伝説　天女流浪の道は鉄の道 』である。

2．丹後地方に伝わる口承説話

羽衣天女　七夕伝説

むかし、むかし比治の山の頂き近くに大きな美しい池がありました。
その池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていました。天女が農業、養蚕、機織りの業をおかげで里は豊かになりました。
そのうち、天女は天が恋しくなって、隠してあった羽衣を見つけて天に帰りました。
その時、三右衛門に七日七日に会う約束をしましたが「あまのじゃく」は七月七日と偽って伝えました。
一年に一度しか会えないと思った三右衛門は天女を慕うあまり、夕顔の蔓を登って天上にあがり、天女に会うことができました。
天女と暮らしたい三右衛門は、天の川の架橋づくりを請け負いました。
橋が完成するまで天女を思いだしてはいけないという約束を破ったとたん、天の川は洪水になって、三右衛門は下界に追い出されてしまいました。
そして、七月七日の夜には天女が天の川のきらめく星となって三右衛門と三人の娘に会いにやってくると言うことです。

古代遺跡がならぶ弥栄町竹野川流域

峰山町　赤坂今井墳墓遺跡

弥栄町　遠所製鉄遺跡

10.3.　丹後国　古代　鉄の王国　『Iron Road 』

赤 坂 今 井 墳 丘 墓 遺　跡

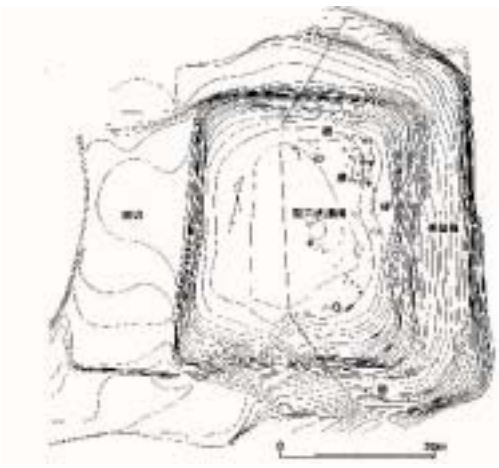
－ 弥生時代後期　国内最大級の墳丘墓 －　京都府　峰山町

akskaprint.htm 2000.March　by Mutsuo Nakanishi

京都府中郡峰山町赤坂で、弥生時代後期末（三世紀中ごろ）の国内最大級の方形墳丘墓が見つかり 「赤坂今井墳丘墓」と命名された。

当時この地は天然の良港であった浅茂川湖から農耕の中心地である中郡盆地へ至る交通路の 途中の谷筋に沿った丘陵地に位置し、南北 37.5m、東西 32.5m の方形で、高さ 3.5m 。周囲に幅 5,6m のテラスがある。

弥生時代の大型墳丘墓には、楯築遺跡（岡山県倉敷市）などがあり、赤坂今井墳丘墓もこれらに近い国内最大級の大きさで、被葬者は日本海沿岸の強大な首長の一人だったとみられ、墳墓の規模・形式の差などから、出雲や畿内と違う巨大勢力の存在がうかがえ、「古墳時代に先立つ弥生期に、すでに丹後に強大な大王国権力者が存在し、九州や朝鮮半島、中国との独自な交流、貿易を基盤にしていた」ことを裏付ける遺跡である。



赤坂今井墳丘墓主体部配置図

これまでに見つかっている弥生時代の墳墓は、大風呂南墳墓を含めて、墳丘を大きく意識したものでないのに対し、墳丘の築造は、後方の山を切り崩 し、新たに盛り土で形を整えている。 規模だけでなく

工法上もかなりの労働力を費やしたである。
また埋葬施設の墓壙（こう）は、丘上の平たん面からは六基、テラス部分からは七基の計十三基が見かっている。
岩滝町大風呂墳墓など丹後半島の弥生時代後期のお墓からは多量の玉類や、鉄製品が出土することで全国的にも注目を集めているが、墳丘中央部に位置する最大の墓壙は長さ約十四メートル 幅は八メール前後とみられ、弥生時代では国内最大。
それ以外の墓壙からは、珍しい舟形や箱形木棺跡のほか、鉄製のヤリガンナ、短刀、鉄鏃（ぞく）（かめ）なども見つかった。
（赤坂今井墳丘墓・今井城跡　峰山町現地説明会資料より抜粋　アレンジ）

by M.Nakanishi　2000.5.1.

●　赤 坂 今 井 遺 跡 探 訪　　2000. 8. 26.

私が赤坂今井遺跡を訪れたのは暑い夏の夕方．弥栄町の遠所・ニゴレ遺跡の後に建っている「味わいの郷」を訪れた後 従兄弟の家へ寄った時である．峰山の街中から網野への街道の峠を越えて赤坂の集落に入り、赤坂の集落を抜けてその北の外れの丘の上が赤坂今井遺跡。
丁度発掘調査がされている途中にであった。
網野への街道沿いの祖父たちの墓が在る丘のすぐ北隣の丘で本当に親父の実家のすぐ近所　あまりにも近い場所に遺跡があったのでビックリした。

赤坂今井墳丘墓遺跡遺跡【1】　峰山町

遺跡の北の端の所から遺跡に上がって行くと幾人かの日とが忙しく発掘調査をしている所だった．小さい時から　幾度となく見上げてきた森が「古代　丹後の鉄の大王国を纏め上げてきた豪族の墓」そして通いなれたこの街道が日本海を渡ってきた古代渡来人が海岸から畿内・都へと通った「鉄の道 iron　road」と思うと一層感慨深い．小さい時には思っても見なかった事である．
遺跡のアポイント取っていないので、周りから眺めていたが，チョット遺跡のスナップ写真を取ろうとすると「カミナリ」が調査員から落ちた．「勝手に遺跡の写真をとるな教育委員会へ行って許可貰って遺跡にこい」と。「まあ　なんと閉鎖的な　減る物でなしじゃまをしたわけもないのに・・・・」とこれはこっちの勝手な言い分。でも　チョットは頭に来ました．
今年はあの山内丸山遺跡の開放的な空気を知っているだけに・・・・・
まあ　これからも　峰山町の赤坂には行く機会もあり　ゆっくり訪問したいと思いついつつ遺跡を下りた。

赤坂今井墳丘墓遺跡遺跡【2】　峰山町【赤坂今井遺跡　発掘現場　2000.8.26.】

この古墳が作られた 3 世紀から　古墳時代へと時代が下っていく過程で、渡来人が鉄をもたらし，この丹後が一大鉄の生産加工基地となり、大和の国形成の重要な役割を果した．
今は本当にひっそりしたこの下の街道を当時はにぎやかに多くの人たちがとおり、多くの物産品と共に「鉄」が運ばれたに違いない．まさに　日本誕生に大きな影響を与えた「鉄の道　iron road 」が思いもかけず身近に現われた。
だとすると　僕のルーツもこの鉄の道に関与した鉄の渡来人の末裔か･････
ほんとうに　親父の実家や墓のすぐ隣の丘なのにビックリ。

2000.8.26．午後　京都府　峰山町赤坂にて　M.Nakanishi

丹後国　古代鉄の王国　『 Iron Road 』

10.4．美しいガラス腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南遺跡

ohfroprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1

大風呂南墳墓群は多くの古代遺跡がある野田川流域の河口近い岩滝町にあり
天橋立を隔てて若狭湾につながる阿蘇海沿岸部に隣接する丘陵の上にあり、
海を見下ろすことが出来る。

発掘調査の結果、弥生時代後期項半から末期にかけて造営された 2 基の墳墓から 5 つの墳墓主体部が出土した。特に丘陵先端部の 1 号墳墓からは豊富な副葬品が出土し、弥生の首長級の墳墓と見られている。
１号墳墓では　巨大な木をくりぬいて作られた木棺の内側にはあざやかな朱が塗布され、埋葬者の頭の上側に 9 本、また両脇とその近傍に 4 本の鉄剣が置かれ、腕にはめられていたと推定されるあざやかな青色を発するガラスの腕輪が出土した。

また　頭の上側には貝輪系の銅釧や鉄鏃などの武具　勾玉など　この時期他の遺跡では類を見ない多数の副葬品が埋葬されており、埋葬されている人物の権力の程が覗える。

10.　　丹後　古代　鉄の王国【1】
「羽衣伝説」天女の通った道は「鉄の道」
〔完〕